

バギーのままコンサートスペシャル in アイヴィル vol.4!!

～魂のゴスペル & HAPPYサウンド! 全員で盛り上がる参加型コンサート～



ベビーカーや車いすのまま入場できる「バギーのままコンサート」の特別編として、黒人の歴史のお話とともに、ゴスペルとダンスを組み合わせた迫力満点の演奏やパフォーマンスをお届けします。

出演は、黒人ヴォーカリスト「ロロ」を中心としたグループ「ラブ・ア・レインボー」。さらに日本を代表するトップダンサー「KO-TANG (コータン)」をゲストに迎え、熱く楽しいステージを展開します。

期日▼8月11日(日・祝)

時間▼午後2時開演(午後1時15分開場)

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

定員▼250人程度

入場料▼500円/人(高校生以下無料)※全席自由で、未就学児も入場できます。

その他▼▽高校生以下の場合でも入場券が必要となりますのでご注意ください。▽授乳やおむつ替えの部屋、公演場内に乳幼児用のハイハイスペースを設けます。▽座席数の関係上、立ち見をお願いする場合があります。

申し込み・問い合わせ▼7月13日(土)午前9時から、東海文化センター(☎282-8511)窓口および各プレイガイドで入場券を販売・配布します。

ふるさと歴訪 自然を探して

海岸に暮らすシロチドリ

昨年の初夏。村松海岸を歩いていると、一見誰もいないような砂浜をツツツ…と何か小さなものが走りまわりました。立ち止まった影を急いで双眼鏡でのぞくと、白いお腹のぼつちやり体型に、キョロつとした黒い大きな目と短めのくちばし。シロチドリです。よく見ると、生まれて間もないヒナも、チヨロチヨロと懸命に後を追って小走りしています。すると親鳥は、翼をアンバランスに広げてよろめき始めました。擬傷という、親鳥が外敵の注目を自分に引きつけて、身代わりとなってヒナを守ろうとする行動です。「私は外敵とみなされてしまった!」記録写真もそこそこに、後ずさりして退散です。やがて、親子もどこかへ見えなくなりました。

シロチドリは、大きき約17センチメートルと、スズメをひと回りふつくらさせたくらいの鳥で、全国の海岸や干潟に一年中生息します。春に夏になると、親鳥



国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室

益子 美由希

は砂地をくぼませて小石や貝殻を散りばめた巣を作り、ウズラの卵のような卵を産みます。生まれたヒナの背中も砂浜模様。上手にカモフラージュして、カラスなどから身を守っています。

しかしこうなると、私たちが彼らの存在に気付くのもなかなか大変です。実際に、シロチドリの個体数は減少傾向にあると報告されており、環境省では2012年、茨城県では2016年に、レッドリスト(※)の絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種)に新たに指定されました。比較的高いランクで急に指定された理由としては、近年の全国的な砂浜の減少や、砂浜でのレジャー利用の増加による子育ての失敗が挙げられています。

国土交通省による他地方での取り組みでは、海岸での工事の際に、シロチドリの生息に適した場所を保全・造成するなど配慮がなされた例もあります。小さな彼らにも暮らしやすい環境づくりが広がることを願っています。

※絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト。国内では環境省や地方公共団体によって作成され、定期的に見直しが行われています。